

令和元年度「山形学」講座 第1回目が終了しました！

第1回目は「みせる」と題して、山形国際ドキュメンタリー映画祭理事の高橋卓也氏と山形児童劇研究会会長の佐藤満徳氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の本田香奈子氏をコーディネーターに講座を開催しました。

高橋氏は、山形国際ドキュメンタリー映画祭の成り立ちをレトロ調のPR映像で紹介後、なぜ映画祭が山形に生まれ、なぜ30年も続いているのか、ドキュメンタリー映画にこだわる理由、映画は地域や社会に対して何ができるのかわかりやすく語っていただきました。山形には戦後まもなく県内各地に映画サークルが誕生し自主上映が活発な土壌があったこと、山形国際ドキュメンタリー映画祭は、アメリカの映画芸術科学アカデミーより公認映画祭に認定されるなど山形を超え世界で認められる存在になったこと、これまで培った映像文化の歴史や人脈、ノウハウをまちづくりに活かしたいこと、山形の文化を映像にして後世に残す取り組みや子ども映画教室を開催していることなどが紹介されました。興味の尽きない話題ばかりで、充実した時間となりました。

佐藤氏は、最初に「なめとこ山のくま」という紙芝居を実演してくださいました。情感あふれる語り口に受講生はどんどん引き込まれ、昔を思い出して懐かしむ受講生も多く会場は静かな感動に包まれました。その後、劇団の成り立ちや活動内容、演劇教室での様子等を紹介。子どもたちへの演技指導のみならず脚本を書く際は一人一人に合ったセリフを考え、作文や絵を描かせては、その子の家庭環境や心情にも常に気を配り、寄り添うなどして信頼関係を築いているとのこと。合宿では、子どもたちに脚本、役割分担、大道具制作等全て任せ、実際に上演させることで、一回り大きく成長すると目を細めて語っておられました。

映画・演劇とジャンルは違えども、芸術文化をとおして子どもたちと遊び、興味関心をもたせ将来につなげようと子どもたちの教育に積極的に関わっている講師二人の熱意が伝わる講座となりました。

現代山形の「みせる」芸術文化について深く理解できた大変有意義な講座となりました。

第1回「みせる」

コーディネーター：本田香奈子氏（「山形学」企画委員）

講師：高橋卓也氏（山形国際ドキュメンタリー映画祭理事）

佐藤満徳氏（山形児童劇研究会会長）

場所：遊学館3階 第1研修室

日時：令和元年7月27日（土）13：30～16：00

参加者：79名





☆令和元年度「山形学」フォーラム及び講座は、全講座終了後に内容をまとめ、講座録“遊学館ブックス”として発刊いたします。これまでの講座も冊子にしており、販売しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。